

平 成 2 7 年 度

事 業 報 告 書

事 業 報 告 の 附 属 明 細 書

公益財団法人かわさき市民活動センター

目 次

事業報告書

1 当法人の現況に関する事項	1
(1) 事業の経過及びその成果	1
(2) 直前 3 事業年度の財産及び損益の状況	1
(3) 主要な事業内容	1～2
(4) 重要な契約に関する事項	2
(5) 職員に関する事項	2
(6) 役員会等に関する事項	2～3
(7) 対処すべき課題	3～4
2 役員等に関する事項	4
(1) 理事	4
(2) 監事	4
(3) 評議員	4～5
(4) 役員等の報酬	5

事業報告の附属明細書

I 役員の他の法人等の業務執行理事等との重要な兼職状況…	6
II 事業実施について補足すべき重要な事項【事業の概要】…	6
1 市民活動推進事業	6～14
2 青少年健全育成事業	15～33
3 法人の運営	33～34

事業報告

(平成27年4月1日から平成28年3月31日まで)

はじめに

当財団の使命は、「川崎市における市民活動支援の中間支援組織として市民相互の連携を図りながら市民活動の活性化を促進するとともに、青少年の心身の健全な育成を図るため、青少年事業の推進及び地域組織への支援を行い、もって住みよい地域社会の確立に寄与する」ことと定款第3条に定められています。平成27年度においても「市民活動推進事業」及び「青少年健全育成事業」を2本の柱として、地域の関係団体・関係機関と連携した事業展開を図りました。

「市民活動推進事業」では、調査・研究事業において「応援ナビかわさき」での※1 ツイッターの試行実施や、目的達成のための資金を募る手法として※2 クラウドファンディングの活用等の新たな取り組みを行いました。

「青少年健全育成事業」では、川崎市こども文化センターの第2期指定管理が平成27年度で満了となることから、第3期(平成28年度～30年度)指定管理者へ応募し、現行と同じ20グループの指定管理を受託することができました。

また、法人として確実な組織運営と健全な財政運営を心がけた経営を行い、公益目的事業の推進を図ることができました。

※1: SNS (ソーシャル・ネットワーキング・サービス: 人と人とのつながりを促進するコミュニティ型のwebサービス) の一つで、短文(140文字以内)を投稿できる。

※2: 群衆(crowd)と資金調達(funding)を組み合わせた造語で、個人や団体が製品・サービスの開発やアイデアの実現などの「ある目的」のために、インターネットを通じて不特定多数の人から資金の出資や協力を募ること。

1 当法人の現況に関する事項

(1) 事業の経過及びその成果 (補正後) (単位: 千円)

事業別【経常収益】	予算現額	執行済額	執行率
市民活動推進事業	99,324	86,100	86.68%
青少年健全育成事業	2,814,855	2,817,502	100.09%

(2) 直前3事業年度の財産及び損益の状況 (単位: 千円)

区 分	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度 (当事業年度)
経 常 収 益	2,838,554	2,868,735	2,909,305	2,939,892
当期経常増減額	17,123	△22,182	△29,418	76,429
正味財産期末残高	290,709	268,540	239,321	315,748

(3) 主要な事業内容

事 業	主 要 な 事 業 の 内 容
市民活動推進事業	・ 市民活動に関する情報の収集・提供及び啓発事業 ・ 市民活動に関する調査・研究事業 ・ 市民活動に関する人材育成及び相談事業

	・市民活動の促進・支援事業 ・関係機関・関係団体等との連携 ・その他目的を達成するために必要な事業（理事会又は評議員会で決議する事業）
青少年健全育成事業	・青少年の健全育成に関する事業 ・青少年施設の管理運営の受託 ・関係機関・関係団体等との連携 ・その他目的を達成するために必要な事業（理事会又は評議員会で決議する事業）

(4) 重要な契約に関する事項

契約年月日	相手方	契約金額	契約期間	契約の概要
平成 27 年 4 月 1 日	川崎市	合計 2,731,174,148 円	H27.4.1 から H28.3.31 まで	川崎市こども文化センター指定管理業務の受託に伴う年度協定書

(5) 職員に関する事項

(平成 28 年 3 月 31 日現在)

職 名 等	氏 名	就任年月日	担当事務	備 考
事務局長	風間 達穂	H22.04.01	事務局の総括	重要な使用人
総務課長	濱舘 幸二	H27.04.01	課の総括	(参事)
市民活動推進課長	入口 茂	H24.04.01	〃	
青少年事業課長	大倉 萬里子	H22.10.01	〃	(参事)
青少年事業課主幹	島 忍	H22.10.01	エリアマネージャーの総括	
その他の職員（嘱託職員を含む）				308 名

(6) 役員会等に関する事項

ア 理事会

会議名	開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
第 1 回	平成 27 年 5 月 29 日	議案 1 平成 26 年度事業報告及び収支決算について 2 平成 27 年度 5 月補正予算について 3 平成 27 年度第 2 回評議員会の開催について 報告 1 行政庁へ提出する事業報告書等について 2 平成 26 年度経営改善計画の進捗管理について 3 年度協定書の締結について 4 特定準備資金の支出結果について 5 職員採用選考について	可決 可決 可決 了承 了承 了承 了承 了承

第2回	平成27年 11月25日	議案 1 平成27年度11月補正予算について 2 平成27年度第3回評議員会の開催について 報告 1 平成27年度上半期の事業等について 2 職員採用選考及び昇任試験について 3 全市的イベントの実施予定等について	可決 可決 了承 了承 了承
第3回	平成28年 3月3日	議案 1 特定費用準備資金の保有について 2 規則改正について 3 平成28年度事業計画について 4 平成28年度収支予算について 5 行政庁への事業計画書等の提出について 6 平成28年度第1回評議員会の開催について 報告 1 職員採用及び昇任試験について 2 全市的イベントの実施結果について	可決 可決 可決 可決 可決 可決 了承 了承

イ 評議員会

会議名	開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
第1回	平成27年 4月16日	報告 1 規則の改正について 2 平成27年度事業計画について 3 平成27年度収支予算について 4 行政庁への事業計画書等の提出について 5 職員採用選考及び昇任試験について 6 全市的イベントの実施結果について	了承 了承 了承 了承 了承 了承
第2回	平成27年 6月22日 (定時評議員会)	議案 1 平成26年度事業報告及び収支決算について 報告 1 平成27年度5月補正予算について 2 行政庁へ提出する事業報告書等について 3 平成26年度経営改善計画の進捗管理について 4 年度協定書の締結について 5 特定費用準備資金の支出結果について 6 職員採用選考について	可決 了承 了承 了承 了承 了承 了承
第3回	平成27年 12月14日	報告 1 平成27年度11月補正予算について 2 平成27年度上半期の事業等について 3 職員採用選考及び昇任試験について 4 全市的イベントの実施予定等について	了承 了承 了承 了承

(7) 対処すべき課題

平成22年9月「騒音差止等請求事件」について

〔原告〕 省略

〔被告〕 川崎市、公益財団法人かわさき市民活動センター

〔裁判所〕 横浜地方裁判所川崎支部

当財団では、顧問弁護士を訴訟代理人として委任し、弁論準備期日、口頭弁論及び和解

期日を経て、平成25年7月2日に原告との和解が成立しました。

その後、原告が平成27年4月に当該地域から転出したため、和解の効力が無くなると考えられますが、和解条項に基づいたルールを引き続き順守し、近隣住民への配慮を継続しています。なお、課題が発生した場合は、川崎市及び当該こども文化センター運営協議会等の関係機関と調整を図りながら対応してまいります。

2 役員等に関する事項

(平成28年3月31日現在)

(1) 理事

役職名	氏 名	任 期	常 勤 非常勤	報酬	他の法人等の代表状況等
代表理事 (理事長)	小倉 敬子	H26.6.19 から H28.6 定時評議員 会まで	常 勤	有	LET'S 国際ボランティア交流会 代表
副理事長	大下 勝巳	"	非常勤	"	特定非営利活動法人 かわさき創造プロジェクト 代表
副理事長	福田 武雄	"	"	"	川崎市青少年育成連盟 副理事長
代表理事 (常務理事)	太田 直	"	常 勤	"	元市民・こども局長
理 事	飯田 嘉徳	"	非常勤	"	社会福祉法人 川崎市社会福祉協議会 事務局長
"	大下 由美子	"	"	"	川崎市PTA連絡協議会 副会長
"	金井 則夫	"	"	"	公益財団法人 川崎市生涯学習財団 理事長
"	鈴木 眞智子	"	"	"	特定非営利活動法人 とどろき水辺 理事
"	瀧村 治雄	"	"	"	川崎市全町内会連合会 副会長
"	深瀬 浩由	"	"	"	川崎市レクリエーション連盟 会長

(2) 監事

役職名	氏 名	任 期	常 勤 非常勤	報酬	他の法人等の代表状況等
監 事	浅田 省三	H26.6.19 から H28.6 定時評議 員会まで	非常勤	有	元川崎市理事・収入役室長
"	志村 佳徳	"	"	"	税理士

(3) 評議員

役職名	氏 名	任 期	常 勤 非常勤	報酬	他の法人等の代表状況等
評議員	齊藤 準	H26.6.19 から H30.6 定時評議 員会まで	非常勤	有	社会福祉法人 川崎市社会福祉協議会 理事
"	三枝 博男	"	"	"	司法書士
"	菅原 陽子	"	"	"	元特定非営利活動法人 市民文化パートナーシップかわさき 理事長
"	竹井 斎	"	"	"	特定非営利活動法人 アクト川崎 理事長

〃	土澤 稔	〃	〃	〃	元川崎市立中学校校長
〃	永津 英二郎	〃	〃	〃	税理士
〃	仁藤 公子	〃	〃	〃	元川崎市立小学校校長
〃	東田 乗治	〃	〃	〃	元神奈川県青少年指導員連絡協議会 会長
〃	前田 成東	〃	〃	〃	東海大学教授

(4) 役員等の報酬

区 分	人 数	報酬の総額	備 考
理 事	10名	6, 216千円	(常勤及び非常勤)
監 事	2名	128千円	(非常勤)
評議員	9名	200千円	(非常勤)
合 計	21名	6, 544千円	

注1：理事、監事及び評議員の報酬額は、平成22年7月1日開催の評議員会において了承された「役員及び評議員の報酬並びに費用に関する規則」において定められている。

2：評議員の報酬の限度額は、「定款」第15条において、毎年度総額30万円を超えないものとされている。

事業報告の附属明細書　《平成 27 年度事業報告》
(平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日)

I 役員の他の法人等の業務執行理事等との重要な兼務の状況

区 分	氏 名	兼 職 先 法 人 名	兼職の内容
理 事	金 井 則 夫	公益財団法人川崎市生涯学習財団	理 事 長

II 事業の実施状況について補足すべき重要事項【事業の概要】

1 市民活動推進事業

全市・全領域の市民活動団体の中間支援組織として、これまでの経験と知識を活かし、川崎市民のボランティア活動及び市民活動団体への支援・育成に取り組みました。平成 27 年度の主な取組結果は、次のとおりです。

(1) 会議室・フリースペース等管理運営事業

平成 27 年度の利用登録団体数は、新規 48 団体、計 694 団体で、会議室・印刷室・フリースペース・パソコン等の施設・設備の利用状況は、次のとおりです。

施設・設備名	平成 26 年度		平成 27 年度		前年度比較（増減）	
会 議 室 A	522 団体	5,531 人	566 団体	6,044 人	44 団体	513 人
会 議 室 B	422 団体	3,955 人	452 団体	4,437 人	30 団体	482 人
印 刷 室	489 団体	1,073 人	571 団体	1,360 人	60 団体	287 人
フ リ ー ス ペ ー ス	3,534 団体	16,758 人	3,864 団体	18,039 人	195 団体	1,281 人
パ ソ コ ン（ 2 台 ）	374 団体	581 人	493 団体	697 人	119 団体	116 人
ロッカー・大（72 台）	72 台		72 台		0 台	
ロッカー・小（ 9 台）	9 台		9 台		0 台	
レターケース（57 台）	36 台		35 台		△ 1 台	
市 民 活 動 ブ ー ス 1	N P O 法人かわさきマンション管理組合ネットワーク					
市 民 活 動 ブ ー ス 2	N P O 法人グローイン・グランマ					
市 民 活 動 ブ ー ス 3	N P O 法人川崎市精神障害者連絡会（H28.2 まで）					
市 民 活 動 ブ ー ス 4	かわさき J プロジェクト+					
市 民 活 動 ブ ー ス 5	①持続可能な地域交通を考える会 ②川崎の交通とまちづくりを考える会 ③川崎フーチャーネットワーク					
後 援 名 義 申 請 数	14 団体		17 団体		3 団体	
施設・設備等利用合計	5,341 団体	27,898 人	5,946 団体	30,577 人	605 団体	2,679 人

(2) 情報提供・啓発事業

ア 情報紙「ナンバーゼロ」の発行（録音版の製作）

ボランティアや市民活動に関する様々な情報を提供するため、毎月 10,000 部（1・4 面フルカラー、2・3 面モノクロ）発行し、市内公共機関、関係団体及び賛助会員に配布しました。また、視覚障害の方にも情報を提供するため、各月号の録音版 CD（デージー図書）を作成し、市内希望者等に当該団体等を通じて、34 名の方に配布しました。

イ ボランティア・市民活動募集冊子（ボラ・ナビ）の発行

ボランティア・市民活動に参加してみたいという学生や市民の方々に役立ててもらうため、市内活動団体のボランティア募集情報を掲載した小冊子「ボラナビ」を、川崎市社会福祉協議会と共同で 5,000 部発行し、市内関係機関・団体、小・中・高等学校等に配布しました。

ウ 神奈川新聞へのコラム連載

市内ボランティア・市民活動の情報提供を目的に、23 名の市民記者の取材・執筆によるボランティア・市民活動等に関する様々な情報を、神奈川新聞の協力を得て、同紙の土曜版に「市民発 地域をつくる人・活動」と題したコラムに連載しています。今年度は 51 回連載しました。

エ ホームページ・ポータルサイトの運営

(ア) ホームページ

平成 27 年度のホームページ（ボランティア・市民活動部門）へのアクセス件数は次のとおりです。

年 度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	前年度比較（増減）
アクセス件数	53,437 件	49,371 件	51,194 件	1.823 件

(イ) 応援ナビかわさき

川崎市内における市民活動のポータルサイトとして役立つよう、イベント・講座・、ボランティア募集、団体詳細、民間助成金、最新情報を迅速に掲載するとともに、コンテンツの充実に努めました。平成 27 年度のアクセス件数は次のとおりです。

年 度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	前年度比較（増減）
アクセス件数	33,056 件	37,327 件	44,313 件	11,257 件

(ウ) メールマガジンの発行

新着情報などをまとめたメールマガジンをメルマガ会員（220 名）あてに月 1 回配信しました。

(3) 調査・研究事業

ア SNS

「応援ナビかわさき」の利便性を高めるため、SNS の一つであるツイッターを試行的に開始しました。また、利用団体の情報発信の利便性を高めるため PDF・RTF が添付できるようしました。

イ クラウドファンディング

クラウドファンディングとは、インターネットを通じて不特定多数の人から資金の出資や協力を募ることで、日本でも既にいくつかのサイトが立ち上げられています。今後、市民活動の資金を得るための有力な手法と考えられることから、当財団でも実益と効果測定を兼ねて、サイトの一つである「READYFOR（レディーフォー）」のホームページに「市民活動支援のためのポータルサイトをパワーアップしたい！」との表題をアップし、チャレンジしてみました。目標額 20 万円に対し 21 万 5 千円の支援が皆様からありました。

今回の経験を踏まえ、こうしたクラウドファンディングのシステムを当財団が自ら構築・運用することを目指して調査・研究を進めてまいります。

(4) 交流促進事業

ア ごえんカフェ（市民活動交流会）の開催

分野・領域・地域を越えて、市民活動団体等の相互交流・連携の促進を図るためのイベントとして、ごえんカフェ（市民活動交流会）を 10 月 31 日（土）に開催しました。当日は、市民活動に関心のある方や市民活動団体等から、36 団体、79 名の参加があり、各団体間での情報交換や交流の場として活用されました。

イ ごえん楽市（かわさきボランティア・市民活動フェア）の開催

「年に一度！川崎市内の市民活動がここに！」をテーマに、ごえん楽市（かわさきボランティア・市民活動フェア）を平成 28 年 1 月 30 日（土）、中原市民館・かわさき市民活動センターを会場に開催しました。昨年に引き続き中原ミュージカルのオープニング演奏をかわきりに、かわさきプラスファミリア演奏、相馬ドンコの会による民話朗読（東日本大震災復興支援企画）、市内市民活動拠点紹介パネル展示、障害者地域作業所作品展示・販売、川崎市 N P O 応援キャラクターパレード、集めて支援！回収（古本、C D、使用済み切手・はがき等）、スタンプラリー、団体パネル展示、団体企画、フリーマーケットなど多彩な催し・出店がありました。内訳は次のとおりです。

出 展 内 訳	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
パ ネ ル 展 示	50 団体	43 団体	49 団体
団体企画（講座等）	24 団体	25 団体	35 団体
フリーマーケット	4 団体	5 団体	7 団体
参 加 者 数	約 1,700 人	約 1,800 人	約 1,800 人

(5) 研修・相談事業

ア 青少年のボランティア体験講座の開催

小・中・高校生を対象にした青少年のボランティア体験講座「チャレボラ 2015」を、市・区社会福祉協議会、市公園緑地協会、川崎授産学園と共催で実施しました。53 のプログラムに延べ 365 名（小学生 171 名、中学生 110 名、高校生 72 名、大学生 1 名）の参加があり、「オリエンテーション」、「各ボランティア体験」、「活動のまとめと振り返り」の全課程修了者（193 名）に修了証が授与されました。

当センターは、6 施設、2 団体（中原図書館、市民ミュージアム、高津市民館橘分館、川崎市地球温暖化防止活動推進センター、わくわくプラザ、地域子育て支援センター、落書き戦隊 ケスンジャー、川崎中原の空襲・戦災を記録する会）の協力を得て、9 プログラムを担当・実施したところ、小・中・高校生計 70 名の参加がありました。

イ 市民活動入門講座の開催

ボランティア・市民活動を始めるきっかけとなるよう、関心のある市民を対象に、講義のみではなく現場でのボランティア体験も加えた入門講座を開催しました。今年度の開催状況は次のとおりです。

開 催 日	内 容	参加数	開 催 場 所
8 月 22 日	講座「あなたの出番～ボランティア・市民活動を楽しもう」 講師 山川真愉美（N P O 法人二枚目の名刺） 市川毅・港道正樹（川崎ババ塾）	12 名	当センター 会 議 室
8 月 29 日	障がい者支援施設・「みずさわ」でのボランティア体験		み ず さ わ
9 月 05 日	振り返り		当センター 会 議 室

ウ パワーアップセミナーの開催

既に市民活動を行っている方々を対象に、パワーアップセミナーを開催しました。
開催状況は次のとおりです。

① 当センター単独開催セミナー

開 催 日	内 容	参加数	開 催 場 所
5 月 16 日	テーマ 新たな仲間の巻き込み方	19 名	セ ン タ ー
	講 師 呉 哲煥（N P O 法人 CR ファクトリー代表）		

6月6日	テーマ	みんなで運営する組織の仕組み	15名	会 議 室
	講 師	呉 哲煥（NPO法人CRファクトリー代表）		
7月4日	テーマ	仲間が集まる！団体リーフレット作成講座	18名	
	講 師	藤原正仁（専修大学ネットワーク情報学部准教授）		
8月1日	テーマ	市民活動団体のホームページ作成講座	20名	
	講 師	市澤浩明（株式会社KDDIウェブコミュニケーションズ）		
9月5日	テーマ	市民活動団体のための会計講座	16名	
	講 師	原 淳子（原淳子税理士事務所）		

② 川崎市社会福祉協議会との共催セミナー

開 催 日	内 容		参加数	開催場所
10 月 17 日	テ ー マ	イベントの企画・運営	15 名	エポック中原
	講 師	五井淵利明（NPO法人CRファクトリー）		
11 月 7 日	テ ー マ	助成金申請の秘訣	14 名	
	講 師	伊藤清和（元ゼロックス東京CSR部）		
12 月 12 日	テ ー マ	仲間づくりのコツ！	13 名	
	講 師	竹迫和代（参画はぐくみ工房）		
1 月 23 日	テ ー マ	魅せるチラシとは？ひきつけるキャッチコピーと	21 名	
	講 師	渡辺潤平（渡辺潤平社代表・コピーライター）		
2 月 13 日	テ ー マ	市民活動・ボランティア活動に役立つ Facebook 活	20 名	
	講 師	酒井隆		

エ 市民記者養成講座の開催

現役の記者の方、広告・広報の専門知識を持つ方を講師として、記事の取材や編集方法等についての講座を毎年実施していますが、平成27年度は市民記者数が充足していることから開催を見送りました。

オ 市民活動相談業務の実施

窓口や電話による相談の他、活動経験のある市民5名による市民活動に関する相談を当センター窓口で実施しました。延べ66件の相談があり、内訳は窓口相談43件、電話相談18件、その他5件で、内51件を職員が対応し、15件を相談員が対応しました。

カ NPO法人の手続に関する相談の実施＜川崎市と共催＞

川崎市との共催により、市職員によるNPO法人の設立などに関する出張相談をセンター窓口で、6月17日・10月21日の2回実施し、8件の相談がありました。また、東京地方税理士会が実施しているNPO法人のための会計相談には、6団体8件の申込がありました。

キ 職員及び役員の派遣

各団体の要請に基づき、職員又は役員を講師等として派遣しております。今年度の派遣状況は次のとおりです。

（ア）職員派遣状況

開 催 日	主 催 者	テ ー マ	対象者	開催場所
10月9日	川 崎 市 健 康 福 祉 局	動 物 愛 護 ボ ラ ン テ ィ ア 講 座	市 民	市 第 4 庁 舎
11月6日	麻生区役所 生涯学習推進課	地 域 人 材 コ ー デ ィ ネ ー タ ー 講 座	市 民	麻 生 市 民 館

(イ) 役員派遣状況

役員の派遣状況は次のとおりです。

開催日	主催者	テーマ	対象者	開催場所
6月4日	麻生区役所 生涯学習支援課	識字ボランティア入門講座 「ボランティアとしての心構え」	市民	麻生市民館
6月12日	多摩区役所 こども支援室	多摩区子育て支援者養成講座 「ボランティア活動とは～子育て支援ボランティア～」	市民	多摩区役所
7月16日	宮前区役所 保健福祉センター	宮前区運動普及推進員・食生活改善推進員 養成教室「健康づくりと地区活動に向けて」	市民	宮前区役所
7月31日	中原区役所 保健福祉センター	中原区運動普及推進員・食生活改善推進員 合同フォロー講座「ボランティア活動を続けるためのコツと心構え」	市民	中原区役所
10月10日	中原区役所 生涯学習推進課	エンパワーメント研修 「市民レポーターと市民活動」	市民	中原市民館
11月2日	宮前区役所 保健福祉センター	宮前区運動普及推進員フォロー研修 「健康づくりと地区活動～ボランティア活動を継続するためのコツ～」	市民	宮前区役所
12月4日	宮前区役所 保健福祉センター	宮前区すすく子育てボランティア養成講座 「ボランティア活動の心得」	市民	宮前区役所
12月9日	多摩区役所 生涯学習支援課	識字ボランティア入門講座 「識字ボランティアとしての心得」	市民	多摩市民館
12月12日	(公財)川崎市公園 緑地協会	里山ボランティア育成講座 「ボランティアの心得」	市民	黒川野外活動 センター
2月26日	幸区生涯学習支援 課日吉地区担当	シニアの社会参加支援事業 「有意義なシニアライフに向けて」	市民	日吉分館
3月4日	幸区生涯学習支援 課日吉地区担当	シニアの社会参加支援事業 「振り返り・今後の活動に向けて」	市民	日吉分館
3月5日	中原区役所 生涯学習支援課	中原区生涯学習交流集会 「中原区から始めよう！地域活動はじめての 一歩」	市民	中原市民館
3月12日	宮前区役所 生涯学習支援課	宮前区生涯学習交流集会 「継続した活動に必要なこと」	市民	宮前市民館
3月29日	川崎市 健康福祉局	いきいきリーダー養成講座・ベーシックコ ース「市民活動をより効果的に行うために」	市民	大山街道 ふるさと館

(6) 連絡調整事業

ア 川崎市社会福祉協議会との連絡調整会議の開催

平成27年11月4日(水)に当センター会議室において、川崎市社会福祉協議会ボランティア活動振興センターと市民活動推進課との連絡調整会議を開催し、ボランティア・市民活動についての情報交換及び調整等を行いました。

イ 川崎防災ボランティアネットワークの運営

団体間の情報交換と連携協力を図るため、定例会を7月6日に開催し、12団体の参加がありました。また、市からの要請に基づき、平成27年度川崎市総合防災訓練(宮前区、8月30日実施)に、5団体6名の方に参加・協力いただきました。

ウ 大学と市民活動団体との連携・協働事業の支援促進

専修大学ネットワーク情報学部との連携による市民活動団体への広報支援事業を毎年度実施しています。平成 27 年度は 9 団体の参加協力を得て、映像作品や団体パンフレットの作成支援を行い、4 団体の映像作品が第 7 回かながわ N P O 映像祭において入賞し、うち 1 団体がグランプリ（最上位賞）を受賞しました。

エ 市・区の市民活動支援担当者との定期的情報交換会等の開催

市民・こども局（市民活動推進課）との定例会を 7 回、区役所の市民活動支援担当者と市民活動支援に関する情報交換会を 1 回開催しました。その他、市国際交流協会や市生涯学習財団等の公設中間支援団体、また市内 N P O 法人等の民間中間支援団体との意見交換会を、それぞれ 1 回ずつ開催しました。

(7) かわさき市民公益活動助成金制度運営事業

平成 27 年度の「かわさき市民公益活動助成金運営事業」に関わる募集、審査等の実施状況は、次のとおりです。（なお、今年度からスタートアップ助成とステップアップ助成で同一事業申請の場合は、一次書類審査免除に変更しました。）

募 集 期 間	平成 26 年 11 月 21 日～平成 27 年 2 月 27 日
審 査 方 法	書類審査及び公開プレゼンテーション
審 査 委 員 会	平成 26 年度公開事業報告会（4 月 12 日） 第一次審査・書類審査（3 月 2 日、4 日） 第二次審査・公開プレゼンテーション（4 月 18 日、19 日）
審 査 結 果	スタートアップ助成 ・申請 15 団体 交付 14 団体 ステップアップ助成（30・100・200） ・申請 41 団体 交付 33 団体
交 付 総 額 （ 決 算 額 ）	15,920,354 円 （内訳＝川崎市：12,595,354 円・河川財団：3,325,000）

(8) 川崎災害ボランティア活動助成事業

国内における災害発生後の被災地で行う復興支援に関わるボランティア活動助成については、国内においてさまざまな自然災害が続き、ボランティアによる支援活動が高まっていることから、引き続き当助成制度を継続実施しました。平成 27 年度の助成実績は、次のとおりです。

期 間	申 請 件 数	交 付 金 額	昨年度実績
平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月	2 件（1 団体）	85,810 円	99,548 円

(9) 川崎市市民活動補償制度運営事業

川崎市市民活動補償制度運営事業（ボランティア保険事業）の今年度の状況は次のとおりです。

期 間	申請件数	支払件数	支 払 額	昨年度実績
平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月	39 件	38 件	5,826,482 円	2,151,840 円

なお、平成 25 年度から、町内会等から要請がある場合は、当センター職員を派遣し、ボランティア保険についての説明等を行い、制度の周知・広報に努めています。派遣は次のとおりです。

開 催 日	主 催 者	対 象 者	開 催 場 所
5 月 21 日	建設緑政局みどりの協働推進課	市 民	中原 区 役 所
5 月 26 日	中原区地域振興課	市 民	中原 区 役 所
7 月 13 日	建設緑政局みどりの協働推進課	市 民	高 津 区 役 所

8月20日	建設緑政局みどりの協働推進課	市 民	宮 前 区 役 所
10月6日	建設緑政局みどりの協働推進課	市 民	麻 生 区 役 所
11月11日	建設緑政局みどりの協働推進課	市 民	幸 区 役 所
12月3日	川崎市公園緑地協会	市 民	中 原 区 役 所
12月26日	長沢はなみずき会	市 民	長沢自治会館
1月4日	麻生区地域保健福祉課	市 民	麻 生 区 役 所
1月19日	建設緑政局みどりの協働推進課	市 民	多 摩 区 役 所
2月16日	建設緑政局みどりの協働推進課	市 民	川 崎 区 役 所

(10) 賛助会員の確保

賛助会員数及び賛助額は次のとおりです。

種 別	会 費 (1口)	平 成 2 6 年 度 末			平 成 2 7 年 度 末		
		会員数	口 数	賛助総額	会員数	口 数	賛助総額
個 人 会 員	1,000 円	93 名	185 口	185,000 円	81 名	206 口	206,000 円
団 体 会 員	5,000 円	36 団体	43 口	215,000 円	35 団体	42 口	210,000 円
合 計		129	228 口	400,000 円	116	248 口	416,000 円

(11) 募金・寄付等の取組

ア ボランティア・市民活動募金

市民活動推進事業への寄附等を募るため、募金箱を当センター窓口やご協力を得た市内事業者の各店舗へ設置しております。募金箱その他を合わせて、平成 27 年度は 127,299 円の寄付がありました。また、一般社団法人生命保険協会神奈川県協会（幹事会社第一生命保険株式会社神奈川東部支社）から、200,000 円のご寄付をいただきました。

イ 東日本大震災義援金募金

引き続き、被災地域への復興復興、被災者への支援を行うため、当センターに募金箱を設置し、義援金を募りました。平成 27 年 3 月末現在、9,017 円のご寄付をいただきました。この義援金につきましては、（公財）神奈川新聞厚生文化事業団を通じて、被災地域の支援に供する予定です。

(12) 川崎市からの受託事業

ア 中原区子育て支援者養成事業

中原区が地域課題対応事業の一つとして実施している「子育て支援者養成事業」を平成 26 年度に引き続き 27 年度も受託しました。本事業を地域子育て力向上事業の一つと位置づけ、子育てを地域のネットワークやコミュニティづくりのリーダー役を担える人材の育成を目標に取り組みました。今年度の開催状況は、次のとおりです。

(ア) 一般向け子育て支援者養成講座

開 催 日	内 容		参 加 数	開 催 場 所
9月8日	テーマ	・オリエンテーション・自己紹介 ・中原区の子育て施策について	21 名	当センター 会議室ほか
	講 師	・中原区役所こども支援室、 当センター講座担当		
9月15日	テーマ	・子育てを取り巻く環境の変化と、 現代社会が抱える課題について		
	講 師	・田中雅文（日本女子大学教授）		

9月29日	テーマ	・子育て中の母親への理解と支援のあり方		
	講師	・山澤和子（日本女子大学助教）		
10月13日	テーマ	・子育て支援活動団体紹介と交流		
	講師	・子育て支援活動団体（4団体）		
10月14日 ～16日 10月20日	テーマ	・前回紹介のあった支援場所見学		
	講師	・子育て支援活動団体（4団体）		
11月6日	テーマ	・振り返りとまとめ ・今後について		
	講師	・当センター講座担当		

(イ) フォローアップ講座

開催日	内 容		参加数	開催場所
11月19日	テーマ	子育てを取り巻く現代の状況を知り、子育て支援者としての具体的対応を学ぶ	14名	当センター 会議室
	講師	久富陽子（東京家政大学教授）		
11月26日	テーマ	昨年度の受講生との交流		
12月10日	テーマ	まとめと今後について		

イ NPO法人スタッフ養成講座事業

NPO法人の活動支援をするための人材育成事業を、新たに川崎市から受託しました。

前半は法人の事務スタッフを養成する講座を、後半は資金調達の担当者を養成する講座を開催しました。開催状況は、次のとおりです。

(ア) 事務マスター講座

開 催 日	内 容		参 加 数	開 催 場 所
10月13日	テ ー マ	N P O法人の事務の全体像	45 名	高津区役所
	講 師	笹子まさえ（かわさきN P O法人連絡会副代表・認定N P O法人アクト川崎事務局長）		
10月27日	テ ー マ	日々の実務	48 名	
	講 師	笹子まさえ		
11月10日	テ ー マ	事業年度が終了したとき	42 名	
	講 師	笹子まさえ		
11月24日	テ ー マ	N P O法人の労務	27 名	
	講 師	佐川陽子（佐川社会労務士事務所）		
12月8日	テ ー マ	N P O法人の税務	35 名	
	講 師	原 淳子（原淳子税理士事務所）		

(イ) 資金調達マスター講座

開 催 日	内 容		参加人数	開 催 場 所
2 月 16 日	テ ー マ	寄附呼びかけの具体的な組み方	22 名	中原区役所
	事 例 報 告	新井靖子（NPO法人わになろう会）		
	講 師	杉原志保（NPO法人NPOサポートセンター、準認定ファンドレイザー）		
2 月 23 日	テ ー マ	クラウドファンディングの活用手順	22 名	
	事 例 報 告	下川原彩（認定NPO法人キーパーソン 21）		
	講 師	大久保彩乃（READYFOR株式会社）		

(13) 職員研修

職員の資質向上や必要とする知識習得等を目的に、市内外で開催される研修やシンポジウムなどに派遣し人材育成に努めました。職員の参加状況は、次のとおりです。

開催日	主催者	内 容	開催場所
5月28日	公益法人協会・日本NPOセンター	「日本の非営利セクターを支える二つの法人選択の現状と今後のあり方」	東京国際フォーラム
6月11日	神奈川県・横浜市民活動支援センター	企業×NPO×大学 パートナーシップミーティング in 横浜	みなとみらい Inovation & Future Center
6月12日	宮前区まちづくり協議会	市民活動応援講座 「市民に役立つ facebook 活用術」	宮前区役所
9月26日	神奈川県	ボランティア団体成長支援事業 中長期計画策定プログラム	Mass×Mass 関 内フューチャーセンター
1月7日	日本財団CANPAN	魅力が伝わるNPOのロゴづくり	日本財団ビル
1月27日	プロジェクト	魅力ある講座企画の考え方 ～対話力から構想力まで～	横浜市青少年 育成センター
3月13日	（公財）よこはまユース	市民活動フェア 2016	神奈川県民 センター

(14) その他

ア 川崎市社会功労賞

障害児やその家族、担当する教員を支援する「NPO法人わになろう会」代表の新井 靖子氏を推薦したところ、長年にわたる福祉、人権擁護での業績等が評価され、受賞の運びとなりました。

イ 川崎市社会福祉事業功労者表彰（市長表彰）

第53回川崎市社会福祉大会において、川崎市社会福祉事業功労者として「NPO法人フリースペースたまりば」代表の西野 博之氏を推薦したところ、不登校生徒やひきこもりの若者の居場所づくり等の活動が評価され受賞の運びとなりました。

2 青少年健全育成事業

これまでの経験と知識を活かし、こども文化センター53 館・わくわくプラザ 101 施設の適切な管理・運営に努めました。平成 27 年度の主な取組結果は次のとおりです。

(1) こども文化センター及びわくわくプラザ運営事業

ア 快適な居場所づくり

こども文化センター及びわくわくプラザでは、子どもたちの安全確保を旨とし、子どもたちが安心して過ごせる居場所づくりに取り組みました。また、遊びや行事等にも工夫を凝らし、子どもたちが楽しく過ごせるよう努めました。平成 27 年度の利用状況は、次のとおりです。

(ア) こども文化センター（53 館）年間利用状況推移表

利 用 者 別	25 年度	26 年度	27 年度	前年度比較（増減）
乳 幼 児	253,972 人	287,300 人	306,541 人	19,241 人
小 学 生	680,295 人	721,558 人	735,155 人	13,597 人
中 学 生	193,602 人	208,198 人	211,417 人	3,219 人
高 校 生	38,836 人	41,433 人	42,854 人	1,421 人
成 人	375,004 人	404,388 人	416,643 人	12,255 人
計	1,541,709 人	1,662,877 人	1,712,610 人	49,733 人
団体利用数	9,755 団体	10,552 団体	10,699 団体	147 団体

(イ) わくわくプラザ利用状況（101 校）年間利用状況推移表

在 校 児 童 数	25 年度	26 年度	27 年度	前年度比較（増減）
在 校 児 童 数	62,975 人	63,625 人	63,801 人	176 人
登 録 児 童 数	28,952 人 (835 人)	29,655 人 (866 人)	30,575 人 (872 人)	920 人 (6 人)
登 録 率	46%	47%	48%	+1%
利 用 人 数	1,548,158 人 (70,783 人)	1,665,976 人 (72,805 人)	1,777,713 人 (73,261 人)	111,737 人 (456 人)
1 日 平 均 利 用 者 数	5,320 人 (243 人)	5,685 人 (248 人)	6,046 人 (249 人)	361 人 (1 人)

※（ ）内は特別な支援を必要とする児童の内数

イ 乳幼児の子育て支援

平成 27 年度は、延べ 6,131 団体（1 館平均 115 団体）の乳幼児サークルの利用がありました。各館では、場の提供による支援に加え、館独自の乳幼児向け行事として「親子で遊ぼう世界のことば」「読み聞かせとパネルシアター」「フラダンス体験会」「ベビー服の交換会」「乳幼児身体測定」等を実施するほか、関係諸団体の協力を得た行事として「乳幼児と小学生のふれあい交流」「子育てサロン」「リトミック」等を実施しました。また、地域子育て支援会議等に参加し、情報交換を行うと共に、地域の子育てネットワーク作りにも積極的に取り組みました。

ウ 中学生及び高校生の利用促進

中学生・高校生の利用に際しては、主体的な活動の尊重・支援を基本とし対応しています。

異年齢交流行事として「中学生と赤ちゃんのふれあい交流」「スポーツ大会」などを実施したほか、「ダンボール迷路」「キャンドルナイトコンサート」など様々な工夫を凝らした行事に取り組み、利用の促進を図りました。

また、音楽室が設置されている南河原、宮崎及び白山こども文化センターについては、中学生・高校生のほか、地域音楽活動の拠点としての利用促進を図りました。

平成 27 年度の音楽室の利用状況は、次のとおりです。

施 設 名	利 用 者	25 年度	26 年度	27 年度	前年度比較 (増減)
南 河 原	小 学 生	6 人	18 人	25 人	7 人
	中 学 生	181 人	226 人	158 人	△68 人
	高 校 生	370 人	490 人	422 人	△68 人
	一 般	523 人	477 人	555 人	78 人
	個 人 利 用	1,080 人	1,211 人	1,160 人	△51 人
	団 体 利 用	499 団体	647 団体	679 団体	32 団体
宮 崎	小 学 生	0 人	2 人	10 人	8 人
	中 学 生	62 人	84 人	82 人	△2 人
	高 校 生	217 人	251 人	379 人	128 人
	一 般	666 人	781 人	975 人	194 人
	個 人 利 用	945 人	1,118 人	1,446 人	328 人
	団 体 利 用	644 団体	876 団体	994 団体	118 団体
白 山	小 学 生	18 人	6 人	6 人	0 人
	中 学 生	55 人	23 人	24 人	1 人
	高 校 生	1475 人	1,023 人	1009 人	△14 人
	一 般	709 人	1,212 人	1,220 人	8 人
	個 人 利 用	2,257 人	2,264 人	2259 人	△5 人
	団 体 利 用	945 団体	1,109 団体	1135 団体	26 団体
計	小 学 生	24 人	26 人	41 人	15 人
	中 学 生	298 人	333 人	264 人	△69 人
	高 校 生	2,062 人	1,764 人	1,810 人	46 人
	一 般	1,898 人	2,470 人	2,750 人	280 人
	個 人 利 用	4,282 人	4,593 人	4,865 人	272 人
	団 体 利 用	2,088 団体	2,632 団体	2,808 団体	176 団体

エ 地域活動拠点としての利用推進

- ・こども文化センターは地域の児童の健全育成に寄与するという目的施設ですが、児童の利用が少ない時間帯を中心として、地域のボランティアや市民活動団体等の方々の利用促進にも取り組みました。
- ・平成 27 年度は、延べ 22,220 団体（1 館平均 419 団体）の利用があり、会議や打合せのほか、卓球、気功、俳句、ヨガといった趣味の活動の場としても利用されました。
- ・例年、そうした利用者の一部の方には、子どもたちのフラダンス教室や卓球教室などの講師になっていただいたり、コンサートで演奏していただいたり、ボランティアとして様々なご協力をいただいております。

平成 27 年度の利用状況は次のとおりです。

団 体 種 別	25 年度	26 年度	27 年度	前年度比較（増減）
青 少 年	5,001 団体	4,950 団体	4,896 団体	△54 団体
市 民 活 動	9,755 団体	10,552 団体	10,699 団体	147 団体
幼 児 G	6,525 団体	6,428 団体	6,131 団体	△297 団体
そ の 他	516 団体	565 団体	494 団体	△71 団体
計	21,797 団体	22,495 団体	22,220 団体	△275 団体

オ 運営協議会との連携強化

- ・運営協議会は、こども文化センターの運営を、地域と連携して円滑に行うために設置された機関です。運営協議会では、こども文化センターの様々な課題について協議を行い施設利用のルール作りや地域団体との橋渡しを担っていただいているほか、行事等も積極的に参画していただくなど、その役割は多岐にわたっています。
- ・平成 27 年度は、全市で 288 回（各館平均 5 回）の運営協議会が開催され、延べ 3,065 名の運営委員の方にご参加いただき、こども文化センターを巡る様々な課題について協議をしていただきました。
- ・また、恒例行事の「こどもまつり」「さんま祭り」「クリーン作戦」「昔あそび＆餅つき」「流しそうめん」「焼き芋」等の開催に当たりましては、運営協議会の委員の方々には、様々なご協力・ご支援をいただきました。
- ・なお、区ごとに各館の運営協議会が参加する「区運営協議会」を開催し、各館で取り組んでいる行事の計画・報告や各館共通の課題等について協議していただいております。平成 27 年度は、全区で 8 回開催され、延べ 95 名の委員の方にご参加いただきました。
- ・各館の運営協議会及び区運営協議会で出された意見や結論を集約し、こども文化センターの運営に活かしました。

カ 不登校児への対応

- ・不登校児が来館した際に備え、より適切な対応ができるよう、専門研修の実施など職員のスキルアップに取り組みました。
- ・不登校児の利用があった場合は、状況を把握し学校等関係機関と連携して対応しました。

キ 児童の安全・安心の確保

(ア) 安全・安心の確保

児童の安全・安心の確保は本事業の基本であり、職員一人ひとりがそのことを常に念頭に置いて日々の業務にあたるよう心がけました。具体的な取組みは次のとおりです。

① 事故防止について

施設や遊具の安全確認と不具合箇所の整備を徹底するとともに、区ごとに事故ゼロ運動を推進するなど、本部・各館一丸となって事故防止に取り組みました。

わくわくプラザにおいては、児童用ビブス・トランシーバー等を活用し、見守りを強化しました。

なお、利用児童がケガを負った場合は「事故対応マニュアル」にしたがい、迅速かつ適切な対応に努めました。

② 防犯について

防犯については、利用児童及び保護者に安全への意識を促すため、こども文化センター・わくわくプラザは児童と共に地域の安全マップを作成し、危険個所の確認をしました。

また、不審者情報については神奈川県警察の「ピーガルくん・こども安全メール」サービスを利用し各館の職員が適切な対応がとれるようにするとともに、様々な情報や指示を、適宜、本部から各こども文化センターに発信し事件・事故の予防、安全・安心の確保に努めました。

③ 防災・災害時の対応について

こども文化センターにおける防災対策及び災害時の対応については、川崎市の指針・方針に基づき作成した「災害時対応マニュアル」に基づき取り組んでいます。

平成 27 年度は、停電等により通信網が途絶えた場合を想定し、（電動）自転車等を利用した情報伝達訓練を実施しました。

わくわくプラザについては、学校の対応と合わせることで、常に学校と連携して取り組んでいます。また、保護者に協力いただき、災害用伝言ダイヤル「171」の試行利用を全わくわくプラザで行いました。

(イ) 食物アレルギー対策

次の基本ルールを策定し、子どもたちのアレルギー事故防止に取り組みました。

施設名	対応策
こども文化センター	①当財団が単独で主催する行事等で食物を提供する場合は、事前申込制とし、アレルギーの確認は、児童ではなく、保護者に確認していただくことを基本とする。 ②共催行事等で、食物を提供する場合は、上記ルールの適用を保護者や関係者の理解を得ながら進める。
わくわくプラザ	①わくわくプラザ登録時にアレルギーを持つ子どもの保護者に「食物アレルギー調査票」の提出をお願いし、さらにおやつ申込時に、原材料名（成分表）が記載されたメニュー表をもとに、保護者にアレルギーチェックをお願いする。 ②子どもにおやつを配布するときには、必ず複数の職員が「食物アレルギー調査票」に基づきチェックします。アレルギーとなる成分が入っているおやつについては、当該児童の保護者に手渡す。このとき、おやつが食べられなかった児童には、十分な説明をする。
共通	①アレルギーを持つ児童が差別されないよう、食物アレルギーについての啓発活動に努める。 ②児童がアナフィラキシーショックを起こした場合に備え、アドレナリン自己注射薬（エピペン）の投与等、応急処置ができるようにアレルギー研修の受講を職員に義務付ける。

ク 特別な支援を必要とする児童等への対応

平成 27 年度のわくわくプラザにおける特別な支援を必要とする児童登録数は 872 名でした。特別な支援を必要とする児童に対し、より適切な対応が行えるよう、専門知識を持つ巡回相談員を 8 名配置しました。巡回相談員は、元特別支援学校の教諭や小学校の校長経験者で、当該業務に従事するスタッフのアドバイザーとして、またスタッフ研修の講師として活躍していただきました。

また、学校との日頃からの連携・情報の共有に努めるとともに、発達相談支援センター・児童相談所・地域療育センターなどの関係諸機関との交流・連携強化にも取り組みました。

ケ わくわくプラザ学習タイムの実施

子どもたちの学習習慣の形成を図るため、引き続きボランティアや臨時職員からなる専任アドバイザーを配置し、落ち着いて自学・自習ができる時間と場所を確保し、学習タイムを実施しました。

コ 子ども運営会議等の活動促進

(ア) こども文化センター

こども文化センターには、子どもたちの自主性を尊重し、行事等で子どもたちの意見を反映させるための機関として、利用児童で組織する「子ども運営会議」が設置されています。平成 27 年度は延べ 781 回（各館平均 14 回）開催され、延べ 6,267 名（各館平均 118 名）の参加があり「イラスト大会」や「夏まつり」「水あそびデイ」「お楽しみ会」などの様々な行事が子どもたちの企画・運営により実施されました。

(イ) わくわくプラザ

わくわくプラザにも、同様の趣旨で「子ども運営会議」が設置されています。平成 27 年度は、延べ 1,363 回（各わくわくプラザ平均 13 回）開催され、合計 51,174 名（各わくわくプラザ平均 506 名）の参加があり、「お化け屋敷」「リレー大会」「新入生を迎える会」などの様々な行事が子どもたちの企画・運営により実施されました。

サ 地域関係機関・関係団体との連携の強化

こども文化センター・わくわくプラザの円滑な事業運営を図るため、地域関係機関（学校・各区こども支援室・子育て支援センターなど）や地域施設利用団体（子ども会など）が実施する行事等に積極的に参加し、連携強化に努めました。具体的取組内容は次のとおりです。

主 催 者	開 催 日	内 容（総数）	参 加 数	開 催 場 所
川 崎 区	9 月 5 日	川崎区子育てフェスタ (2,700 人)	1,391 人	教 育 文 化 会 館
幸 区	2 月 27 日	子育てフェアさいわい (777 人)	400 人	幸 市 民 館
中 原 区	11 月 28 日	なかはら子ども未来フェスタ (2,500 人)	162 人	中 原 区 役 所
高 津 区	8 月 30 日	高津区子どもフェア (1,000 人)	253 人	新二子橋下周辺
	11 月 21 日	高津区子ども・子育てフェスタ (2,300 人)	142 人	高 津 市 民 館
宮 前 区	10 月 24 日	みやまえ子育てフェスタ (1,500 人)	200 人	宮 前 市 民 館
多 摩 区	9 月 20 日	たまたま子育て祭り (4,000 人)	600 人	多 摩 区 庁 舎
麻 生 区	9 月 13 日	あさお子育てフェスタ (2,800 人)	580 人	麻 生 区 役 所

※参加数は、各こ文から引率参加した児童数及び出店したブース等に参加した児童数の合計です。

シ 複数館による合同行事の開催

平成 27 年度も、児童の交流の輪を広げるため、生きる力・創造性豊かな心・共感する心を子ども自身が身につけることを目的に、全市・区・グループ単位で合同行事に取り組みました。

主な取組結果は、次のとおりです。

(ア) 全市域合同行事の取組

① マンカラ大会・子どもサミット

マンカラ大会・子どもサミットは、平成 27 年 12 月 12 日（土）に中原市民館で開催しました。マンカラ大会の予選参加者（各館の計）は 4, 577 名、子どもサミットの各施設での話合い参加者（各館の計）は 11,913 名、当日のマンカラ本選参加者及びサミット代表参加者の計は 599 名、合計 17,089 名の子どもたちの参加がありました。なお、マンカラ大会をより盛り上げるため、昨年に引き続き個人対抗勝抜き戦ではなく各館対抗勝抜き戦としました。

② 「BUNBUN ステージ」

BUNBUN ステージは、平成 28 年 1 月 23 日（土）に高津市民館で開催され、出演者のその他、保護者、引率職員を含め総勢 1067 名の参加がありました。

出演は、29 団体（うち中学生・高校生バンド 6 団体）454 名で、創作ダンス、手品ショー、フラダンス、空手演武など様々なパフォーマンスが舞台の上で繰り広げられました。

今回は、隣の世田谷区喜多見児童館の 2 団体の出演もあったことから、川崎市市長及び世田谷区長にもご臨席いただき、子どもたちの元気な演技を暫し楽しんでいただきました。

(イ) 区単位の合同行事

区 別	開 催 日	内 容	参 加 数	開 催 場 所
川 崎 区	8 月 1 日	川崎区 9 館こども文化センター合同事業 鑑賞会「川崎こ文寄席」	179 人	ふれあいプラザかわさき
	11 月 7 日	川崎区 9 館こども文化センター合同事業「スマイルフェスタ 2015 ONEDAY こ文 KAWASAKI」	304 人	富士見中学校体育館
幸 区	8 月 18 日	幸区 6 館こども文化センター合同事業 鑑賞会「マジックファンタジア」	197 人	幸市民館
	1 月 30 日	幸区 6 館こども文化センター合同事業「さいわいキッズシティ 2016～スペシャル♥ありがとう～」	197 人	小倉小学校体育館
中 原 区	2 月 13 日	中原区 10 館こども文化センター合同事業鑑賞会「おまつりびーひゃらどん」	137 人	玉川小学校体育館
	11 月 14 日	中原区 10 館こども文化センター合同事業「なかはら☆キッズストリート」	1,095 人	新城小学校体育館
高 津 区	8 月 21 日	高津区 7 館こども文化センター合同事業 舞台鑑賞会「アンディ先生のマジック&イリュージョンショー」	790 人	エポック中原
	9 月 19 日	高津区 7 館こども文化センター合同事業（高津区運営協議会共催）「名探偵は君だ！～怪盗 X のお宝を取り戻せ～」	261 人	県立東高根森林公園「古代芝生広場」
宮 前 区	8 月 5 日	宮前区 6 館こども文化センター合同事業 鑑賞会「マジックショー」	503 人	エポック中原
	11 月 8 日	ドッチビー大会みやオリンピック～シーズン 6～	285 人	向丘小学校アリーナ
麻 生 区	11 月 1 日	多摩区 7 館こども文化センター合同事業「多摩区友キャラ大作戦」	115 人	稲田小学校体育館
	2 月 6 日	多摩区 7 館こども文化センター合同事業 舞台鑑賞会「一休さん」	250 人	生田小学校体育館

(ウ) グループ単位の合同行事

グループ	開催日	内 容	参加数	開催場所
川崎区 第1 G	6月27日	「3館 GODO デイキャンプ 2015」	53人	旭町こ文(平和島公園の雨プログラム)
	7月25日	「こぶんらんど」	103人	日進町こ文
	7月31日	「食育おでかけ講座」	87人	市立川崎高校
	8月27日	「なかよし♪ドレミ♪音楽会♪」	165人	市立川崎高校
川崎区 第2 G	7月11日 ～12日	「E-じゃんキャンプ 2015」	57人	青少年の家
	9月26日	「ネイチャーポイントゲームラリー」	75人	大師こ文
	10月24日	「カロリング大会」	43人	東門前小学校 アリーナ
川崎区 第3 G	10月3日	「さん★さんデイキャンプ」	43人	城南島海浜公園第1キャンプ場
	8月7日	「わくわくマンカラ大会」	114人	浅田小学校 わくわくプラザ
	12月25日	「風船バレー大会」	84人	渡田小学校 体育館
	2月27日	「かわさきトライアングルコンサート」	71人	浅田こ文
幸 区 第1 G	12月5日	「はっぴー☆うんどうかい」	54人	戸手小学校 体育館
	12月25日	「わくわくプラザ対抗ドッジボール大会」	142人	戸手小学校 体育館
	2月13日	「♪♪♪はっぴーらいぶ♪♪♪」	90人	南河原こ文
	2月24日	「消防士マスター」	43人	幸こ文
幸 区 第2 G	10月31日	「ハッピーキッズキャンプ」	53人	青少年の家
	12月2日	「ハッピーミーティング 2015」	35人	南加瀬こ文
	2月6日	「ドッジボール大会」	51人	小倉小学校 体育館
中 原 第1 G	12月24日	「ウインターコンサート」	100人	西丸子小学校 体育館
	12月25日	「わくわくバレー交流会」	62人	今井小学校 体育館
	10月24日	「オータムデイキャンプ 2015」	30人	林試の森公園
	1月31日	ジャグリングー見て、触れて、遊ぼうー	50人	新丸子こ文
中原区 第2 G	10月21日	「マンカラ交流戦」	48人	井田こ文
	12月25日	「わくわく交流ドッジボール大会」	80人	住吉小学校 体育館
中原区 第3 G	7月30日	「夏だ、びちゃびちゃデー ～水でっぼう大作戦」	84人	玉川小学校
	12月25日	「なかよしカップ～こ文対抗運動会～」	70人	平間小学校 体育館
	9月26日 ～27日	「海空キャンプ」	72人	三浦ふれあいの村
中原区 第4 G	7月28日	「カレー大作戦」	72人	大戸こ文
	1月6日	「わくわく交流会」	123人	大戸小学校 体育館
	11月6日	「乳幼児親子と高校生のふれあい交流会」	36人	新城こ文
高津区 第1 G	10月10日 ～11日	「はらぺこ探検隊」	128人	黒川青少年野外活動 センター
	11月14日	「あついで！ドッジスタジアム」	95人	下作延小学校 体育館
	12月25日	「12月のおくりもの」	137人	高津こ文

グループ	開催日	内 容	参加数	開催場所
高津区 第2 G	7月1日	「わくりんピック」9月26日(水)	92人	東高津小学校 体育館
	9月26日	「わくわくドキドキこども国」	25人	こどもの国
	10月17日	「ニヶ領用水クリーン大作戦」	40人	溝口南公園 ニヶ領用水
	3月12日	「ニヶ領用水クリーン大作戦」	36人	溝口南公園 ニヶ領用水
高津区 第3 G	8月1日 2日	「ともだち倍増計画 サマーキャンプ2015」	59人	黒川青少年野外活動 センター
	1月30日	「ともだち倍増計画 ドッジボール大会2016」	73人	末長小学校 体育館
	2月27日	「ともだち倍増計画 わくわくプラザのあそび交流2016」	56人	梶ヶ谷こ文
宮前区 第1 G	7月23日	「デイキャンプで DONDON! ～ウォーターサバイバル～」	84人	宮崎小学校 体育館
	1月16日	「防犯スポーツプロジェクト」	76人	宮崎小学校 体育館
宮前区 第2 G	7月25日	「ら・ら・ら デイキャンプ ～林試の森へGO!～」	55人	都立林試の森公園
	7月30日	「ら・ら・ら けん玉交流会」	59人	白幡台こ文 こども広場
	12月25日	「ら・ら・ら・ふれんどゲームパーク」	59人	土橋小学校 多目的ホール
多摩区 第1 G	6月13日	「枳形・長尾 夜のおさんぽ in ホタルの国」	41人	生田緑地 「枳形山広場」及び 「ホタルの里」
	7月1日	「枳形・長尾 ドッジボール☆ チャンピオンシップ」	44人	稲田小学校 体育館
	10月9日	「枳形・長尾 アストロテラス de 星空ウォッチ」	32人	かわさき宙と緑の科 学館
	1月5日	「スポーツスタッキング☆ チャンピオンシップ」	34人	枳形こ文
多摩区 第2 G	5月25日	「夢パークへ行こう」	55人	こども夢パーク
	6月20日	「ホタルの国 de ナイトハイク」	40人	生田緑地 「ホタルの里」
	10月9日	「星空のギャラリー@ かわさき宙と緑の科学館」	33人	かわさき宙と緑の科 学館
多摩区 第3 G	12月25日	「交流ドッジボール大会」	155人	中野島小学校 アリーナ
	3月28日	「地域ふれあいステージ」	181人	西菅小学校 体育館
麻生区 第1 G	7月1日	「let`s チャレランカップ2015 ～マンカラ交流&流しそうめん～」	95人	千代ヶ丘こ文
	10月10日	「ただいま逃走中&カレー大作戦2015」	93人	百合丘第三公園 百合丘こ文
麻生区 第2 G	6月13日	「Oh!!カーニバル! 巨大迷路で逃走中」	60人	王禅寺中央小学校 体育館
	10月24日	「Oh!!カーニバル! おかーのハロウィンパ ーティー」	68人	王禅寺中央小学校 王禅寺こ文
	11月7日	「Oh!!カーニバル! 秋山の自然で大冒険」	48人	王禅寺こ文 籠口ノ池公園
麻 生 第3 G	9月5日	「フレンズキャンプ in 黒川 2015」	47人	黒川青少年野外活動 センター
	10月3日	「フレンズカップ2015」	59人	真福寺小学校 体育館 及びブレイルーム
	2月20日	「フレンズステージ2015」	151人	麻生小学校 体育館

ス 体験学習の拡充

子どもたちが情操豊かに育つには、体験学習が果たす役割は重要です。当財団が運営しているこども文化センターやわくわくプラザでは、この体験学習を積極的に取り入れています。平成 27 年度も引き続き「乳幼児と中学生・高校生のふれあい事業」を推進しました。この事業は、中学生・高校生の体験はもちろんのこと、異年齢交流の側面もあわせており、乳幼児と直接ふれあった中学生・高校生だけでなく、保護者からも好評を得ています。

この他にも、市民活動団体や地域の方々に協力いただき、施設の空き地を耕しての農業・食育体験や、盲導犬体験、地域探索、ビオトープ作りなど、子どもたちの豊かな人間形成を図るための様々な体験学習を企画・実施しました。

セ 地域ボランティア等との協働推進

地域には文化伝承者や特殊な技能・知識等を持つ方々が多数おられます。その方々にボランティア講師となっただき、特技の実演や指導等をお願いしています。平成 27 年度は「けん玉」「ジャグリング」「囲碁教室」「音楽コンサート」「科学実験」「腹話術」「お茶会」「ダンス教室」「収穫体験」などを開催・実演していただき、子どもたちに貴重な体験学習の機会を提供していただきました。

ソ 施設修繕・環境整備の推進

老朽化が進んでいるこども文化センターの中には建替え又は大規模修繕が必要なものがいくつかあります。今後、こうした施設の取扱いについて市との協議を進めるため、平成 27 年度は、53 館全てのこども文化センターの調査を実施し、施設状況の把握に取り組みしました。

(ア) 大規模修繕

30 万円以上の施設・設備の修繕については、所有者である川崎市が行うこととなっていますが、安全・安心確保や環境整備の観点から緊急度が高い場合については、市と協議のうえ、指定管理者が行っています。平成 27 年度は、白幡台こども文化センターの天井照明の LED への交換、建具の補修、トイレ床タイル張り及び和式から洋式への便器交換等、合計 18 箇所（総額 10,015,118 円）で補修・改修の工事を実施しました。

(イ) 小規模修繕・軽工事

30 万円未満の施設・設備・用具等の修繕については、指定管理者が行うこととなっています。施設や用具等の安全管理については、日ごろから点検を欠かさず、破損や故障を発見した場合は、迅速に対応することが必要です。

平成 27 年度は、安心・安全確保の観点から網戸や転落防止柵を設置したほか、また環境の整備・向上の観点から、インターホンの一斉修理及び設置、業務用エアコンの操作盤の事務室移転、回転式の水道蛇口への交換、エアコンの点検清掃等、合計 566 箇所（総額 30,924,645 円）で補修・改修の工事を実施しました。

(ウ) 蔵書の充実

読書は、子どもたちが豊かな人間性を育む上で欠かすことのできないものです。感受性豊かな時期に多くの本と接することは、その後の人生を生きていく大きな力になります。乳幼児のための絵本をはじめ、小学生から高校生まで幅広い年齢層に対応した蔵書の充実を図り、青少年の読書力の向上、読書習慣の形成の促進を図るため、平成 27 年度は図書購入費を各こども文化センターに 10 万円、各わくわくプラザに 5 万円を配当し、合計 1,025 万円を追加配当しました。

(エ) 実践集の発行

平成 27 年度も、各こども文化センター及びわくわくプラザの 1 年間の活動記録等を実践集として編集し・発行しました。

今後、各館の参考資料として、また関係者への広報誌として、活用を図ります。

タ 情報発信の取組強化

(ア) ホームページの活用

イベントの開催・活動内容・団体への部屋の貸し出し状況等、施設に関する最新の情報を提供できるよう、定期的に掲載内容を更新しました。また、ログイン方法等を記載したチラシを配布し、ホームページの認知度の向上を図りました。

(イ) 地域メディアの活用

地域メディアを活用し、地域の方々にこども文化センターの場所や事業を広報することで、利用者の増加を目指してまいりました。平成 27 年度の取組結果は次のとおりです。

① かわさきFMの媒体利用

毎月第1日曜日に、こども文化センターの紹介コーナー「こども文化センター みんな☆元気か〜い!」が放送されています。このコーナーでは、各こども文化センターを順番に紹介し、53 館すべてのこども文化センターが登場する予定となっています。平成 27 年度末で 12 館のこども文化センターが紹介されました。

② 川崎市内ケーブルテレビの媒体利用

平成 27 年 6 月 19 日に開催された「ポプリ♪サロンコンサート」が、平成 28 年 1 月 23 日に開催された B U N B U N ステージの様子が、東急沿線のケーブルテレビ「イッツコム」で、放送されました。

(2) 子育て支援・わくわくプラザ事業

「子育て支援・わくわくプラザ事業」とは、川崎市が実施している事業で、就労等により、わくわくプラザの門限である午後 6 時までには児童の迎えが難しい保護者のため、午後 7 時までわくわくプラザを延長するサービスのことです。当財団は、この業務を川崎市から受託し、全わくわくプラザにおいて実施しました。利用状況の推移は、次のとおりです。

年 度	登 録 児 童 数	延 べ 利 用 人 数	1 日 平 均 利 用 人 数
25 年度	2,029 (60) 人	113,120 (4,687) 人	463 (19) 人
26 年度	2,207 (78) 人	123,550 (5,940) 人	506 (24) 人
27 年度	2,431 (73) 人	129,550 (5,144) 人	533 (21) 人

※ () 内は特別な支援を必要とする児童の内数

(3) 地域子育て支援センター（連携型）事業

「地域子育て支援センター（連携型）」とは、こども文化センターを、比較的利用の少ない午前中を利用して、子育て中の親子の交流の場や子育てに関する相談・援助の場として、また地域の子育て情報の提供の場として提供するサービスで、川崎市が実施している地域子育て支援事業の一つです。当財団は、この業務を今年度、10 ヶ所で受託し、「ふあみいゆ」という名称で週 3 日 (9:30~12:30) 開設しています。平成 27 年度の利用状況は次のとおりです。

区	施 設 名	年 度	利 用 者 人 数		
			児 童	大 人	合計人数
川 崎	ふあみいゆ 殿 町	25 年度	2,237 人	2,011 人	4,248 人
		26 年度	2,543 人	2,265 人	4,808 人
		27 年度	2,763 人	2,287 人	5,050 人
	ふあみいゆ 田 島	25 年度	1,251 人	1,176 人	2,427 人
		26 年度	1,760 人	1,520 人	3,280 人
		27 年度	2,177 人	1,806 人	3,983 人
	ふあみいゆ 浅 田	25 年度	2,215 人	1,921 人	4,136 人
		26 年度	2,672 人	2,173 人	4,845 人
		27 年度	2,959 人	2,330 人	5,289 人

区	施 設 名	年 度	利 用 者 人 数		
			児 童	大 人	合計人数
幸	ふぁみいゆ南河原	25 年度	2,569 人	2,383 人	4,952 人
		26 年度	3,365 人	3,197 人	6,562 人
		27 年度	3,034 人	2,856 人	5,890 人
	ふぁみいゆ幸	25 年度	2,748 人	2,572 人	5,320 人
		26 年度	2,398 人	2,257 人	4,655 人
		27 年度	2,824 人	2,547 人	5,371 人
	ふぁみいゆ小倉	25 年度	2,083 人	1,871 人	3,954 人
		26 年度	2,197 人	1,917 人	4,114 人
		27 年度	3,013 人	2,635 人	5,648 人
中 原	ふぁみいゆ新丸子	25 年度	3,165 人	2,884 人	6,049 人
		26 年度	3,733 人	3,418 人	7,151 人
		27 年度	4,036 人	3,695 人	7,731 人
	ふぁみいゆ平間	25 年度	2,155 人	1,855 人	4,010 人
		26 年度	2,472 人	2,234 人	4,706 人
		27 年度	2,612 人	2,255 人	4,867 人
麻 生	ふぁみいゆ千代ヶ丘	25 年度	2,654 人	2,359 人	5,013 人
		26 年度	2,134 人	1,964 人	4,098 人
		27 年度	2,496 人	2,198 人	4,694 人
	ふぁみいゆ柿生	25 年度	1,365 人	1,141 人	2,506 人
		26 年度	1,725 人	1,536 人	3,261 人
		27 年度	1,196 人	1,130 人	2,326 人
全 10 施 設 合 計		25 年度	22,442 人	20,173 人	42,615 人
		26 年度	24,999 人	22,481 人	47,480 人
		27 年度	27,110 人	23,739 人	50,849 人

(4) 人材育成

青少年健全育成事業のサービス向上には、職員の資質向上が欠かせません。当財団では、経験や職位に応じた各種研修を計画的に実施するほか、技術や資格の取得を目的に、川崎市など他の団体が行う研修にも職員を積極的に参加させています。なお、各館では、職員ごとの研修受講名簿を備え、全職員が必要となる研修を順次受講できるように工夫し、効率・効果的な執行を心掛けています。平成27年度の実施状況は次のとおりです。

ア 財団主催研修（全市合同）

研 修 名	講 師	対 象	参加数	開催場所
新 任 館 長 職 員 研 修	本部係担当職員	館 長 員	31 人	中 原 市 民 館
新 任 館 長 研 修	社会保険労務士・小寺 裕之氏	館 長	6 人	財団本部会議室
普 通 救 命 講 習（外 部）	中原消防署職員	館 長 員	28 人	中 原 消 防 署
館 長 研 修	本部係長等	館 長	53 人	総 合 自 治 会 館
主 任 研 修	「他都市児童館等見学等報告会」他	主 任	延 24 人	財団本部会議室
本 部 体 験 研 修	内部講師（本部職員）	主 任 館 長	5 人	財 団 本 部
新任職員フォローアップ研修	エリアマネージャー、本部主査、担当者	館 長 員	37 人	本 部 会 議 室

イ 財団主催研修（区単位）

区	研 修 名	講 師	対 象	参加数	開 催 場 所
川 崎	レクリエーション研修（幸 区 合 同）	新丸子こ文 職員 菊地 加奈子 旭町こども文化センター 職員 栗原 奈苗	職 員	22 人	日 進 町 こ 文
	主任講師体験研修	大師こ文 主任 平工 順一	館 長 員	2 人 25 人	大 師 こ 文
	不登校児対応研修	児童養護施設「すまいる」 所長 小川 暁美 氏	館 長 員	2 人 20 人	児 童 養 護 施 設 す ま い る
	保 護 者 対 応 研 修	江戸川区子ども家庭支援センター 地域支援相談員 佐久間 美香 氏	館 長 員 職 員	2 人 28 人 37 人	日 進 町 こ 文
幸	レクリエーション研修（川 崎 区 合 同）	新丸子こ文 職員 菊地 加奈子 旭町こ文 職員 栗原 奈苗	館 長 員	3 人 17 人	日 進 町 こ 文
	応 急 手 当 研 修	幸こ文ふあみいゆ職員 上野 智子	館 長 員 職 員	3 人 16 人 37 人	南 河 原 こ 文
	不登校児対応研修	南河原こ文 館長 藤原 妙子	館 長 員 職 員	4 人 15 人 36 人	小 倉 こ 文
	コミュニケーション研修	OFFICE CLIP-CIOP 代表 福島 眞由美 氏	館 長 員 職 員	4 人 12 人 42 人	小 倉 こ 文

区	研 修 名	講 師	対 象	参加数	開 催 場 所
中原	不登校児の対応について (全2回)	川崎市総合教育センター 指導主事 中川 薫 氏	館 長 職 員 臨 職	延べ10人 延べ32人 延べ22人	小 杉 こ 文
	安全管理・衛生管理研修	川崎市ごうじ保育園 看護師 三好 里美 氏	館 長 職 員 臨 職	3人 17人 57人	中 原 区 役 所 5 階 会 議 室
	クレーン対応研修	アサーション川崎くじらの会 増井 幸子 氏 石坂 俊子 氏	館 長 職 員 臨 職	3人 20人 48人	小 杉 こ 文
	人材育成の実践方法	館長研修	館 長	10人	小 杉 こ 文
	レクリエーション研修	南加瀬こ文職員 大友 三郎 旭町こ文職員 栗原 早苗	館 長 職 員 臨 職	2人 20人 30人	大 戸 こ 文
高津	不審者対応研修	高津警察署生活安全課防犯係 中野 慎一 氏	館 長 職 員 臨 職	6人 17人 69人	高 津 こ 文
	チーフサポーター研修 (情報交換会)	高津区内こ文館長6名	館 長 職 員 臨 職	6人 3人 35人	高 津 こ 文
	レクリエーション研修 「ひとりになっている 児童の関わり方」	子母口こ文 職員 堀込 峰	館 長 職 員 臨 職	4人 15人 29人	上 作 延 こ 文
	接 遇 研 修	東高津こ文 館長 仁平 京子	館 長 職 員 臨 職	5人 13人 35人	末 長 こ 文
	子どもとのよりよいかか わり方・不登校児の理解	子母口小学校 校長 田中 真喜男氏 東橋中学校	館 長 職 員 臨 職	6人 11人 35人	子母口小学校 東 橋 中 学 校
宮前	ドッチビー審判研修	野川こ文 職員 白井 和彦	館 長 職 員 臨 職	2人 13人	白 幡 台 こ 文
	不登校児童対応研修	梶ヶ谷こ文 館長 山口 隆	館 長 職 員 臨 職	5人 13人 34人	白 幡 台 こ 文
	キ ャ ン プ 研 修	錦ヶ丘こ文職員 高見澤悠太 田島こ文 職員 池田 悦子 南河原こ文職員 眞砂 亜紀	館 長 職 員 臨 職	5人 10人 37人	宮 前 平 こ 文
多摩	不登校児童対応研修	三田こ文 館長 西川 勇	館 長 職 員 臨 職	4人 15人 69人	生 田 出 張 所
	キ ャ ン プ 研 修	西加瀬こ文 職員 宮城江里奈 三田こ文 職員 中野杏里	館 長 職 員 臨 職	2人 9人 8人	菅 こ 文
	乳幼児親子との関わり 方 研 修	菅保育園 園長 武富 久美子氏	館 長 職 員 臨 職	1人 15人 16人	菅 こ 文
麻生	不登校児童対応研修	麻生こ文 館長 南館 明秀 虹ヶ丘こ文 館長 瀬戸山 隆	館 長 職 員 臨 職	2人 17人 16人	麻 生 こ 文
	キ ャ ン プ 研 修	西加瀬こ文 職員 宮城江里奈 白山こ文 職員 梶菜里衣	館 長 職 員 臨 職	2人 17人 7人	麻 生 こ 文

ウ 川崎市主催研修

研 修 名	講 師	対 象	参加数	開 催 場 所
学校とのマネージメント能力・学校や地域との連携について	Libra 代表 日本コーチ協会正会員 飛田 明子 氏	館 長 職 員 臨 職	76 人	生涯学習プラザ
組織の管理能力・コーチングについて (全 2 回)	(株)社員教育研究室 代表取締役 坂巻 美和子 氏	館 長 主 任 職 員	95 人	生涯学習プラザ
野外活動 (全 3 回)	特定非営利活動法人 国際自然大学校職員	館長 主任	98 人	黒川青少年野外活動センター
アレルギー対応 (全 2 回)	川崎市立川崎高等学校全日制養護教諭 市川豊子 氏 定時制養護教諭 黄木彩花 氏	館 長 主 任 職 員	214 人	生涯学習プラザ
保護者・家庭との連携 (全 2 回)	駒澤大学 文学部心理学部講師 川崎幸クリニック 臨床心理士 稲富 正治 氏	館 長 主 任 職 員	183 人	生涯学習プラザ
日本語の未習熟な児童への対応について	川崎市総合教育センター カリキュラムセンター 指導主事 島田 道雄 氏	館 長 職 員 臨 職	87 人	生涯学習プラザ
児 童 虐 待 に つ い て	川崎市こども本部児童家庭支援・虐待対策室 坂口 正浩 氏	館 長 職 員 臨 職	103 人	生涯学習プラザ
子どもの心の理解・障害児への対応について (全 2 回)	川崎市教育委員会事務局学校教育部 導課課長 増田 亨 氏 川崎市総合教育センター 特別支援教育センター 室長 稲葉 武 氏	館 長 職 員 臨 職	202 人	生涯学習プラザ
子どもの心の理解・中高生への対応について	川崎市総合教育センター 指導主事 中川 薫氏	館 長 職 員 臨 職	93 人	生涯学習プラザ
危機管理対応能力 (全 2 回)	川崎市教育委員会指導課 宮前区教育担当課長 篠崎敏行 氏	館 長 職 員 臨 職	185 人	生涯学習プラザ
遊 び や 活 動 の 支 援 (全 3 回)	N P O 法人日本子どもチャレンジランキング連盟 上級指導員 水澤 豊子 氏	館 長 主 任 職 員	103 人	黒川青少年野外活動センター

エ 資格取得研修

研 修 名	講 師	対 象	取得者数	開 催 場 所
レクリエーション・インストラクター資格取得講座「かながわレクスクール」	神奈川県レクリエーション協会	職 員	1 人	神奈川県立スポーツ会館
評価調査者資格研修 (全 6 日間)	かながわ福祉サービス 第三者評価推進機構	館 長	4 人	神奈川県社会福祉会館
雇用環境整備士資格講習会	社団法人 日本雇用環境整備機構	本部職員	4 人	文京シビックホール
幼児安全法支援員講習会	日本赤十字社 神奈川県支部指導員	ふぁみいゆ 担当	5 人	川崎市総合福祉センター

研 修 名	講 師	対 象	取 得 者 数	開 催 場 所
甲 種 防 火 管 理 者 講 習 会	川崎市消防防災指導公社	館 長	2 人	川崎日航ホテル
児 童 厚 生 員 等 基 礎 研 修 会	一般財団法人児童健全育成推進財団	職 員	8 人	国立刈北ッヅ記念 青少年総合センター
中 堅 児 童 厚 生 員 等 研 修 会	一般財団法人児童健全育成推進財団	主 任	5 人	国立刈北ッヅ記念 青少年総合センター
児 童 厚 生 一 級 特 別 セ ミ ナ ー	一般財団法人児童健全育成推進財団	館 長	4 人	上智大学

(5) 教育実習・インターンシップへの対応

公益財団法人の社会貢献の一つとして、例年どおり教育実習生やボランティアを各施設で受入れました。各受け入れ状況は、次のとおりです。

ア 児童館教育実習生の受入れ

依 頼 学 校 名	人 数	実 習 場 所	実習期間
小 田 原 短 期 大 学	1 人	日進町こども文化センター	10 日
帝 京 大 学	1 人	南加瀬こども文化センター	12 日
東 京 福 祉 大 学	1 人	枳形こども文化センター	12 日
横 浜 創 英 大 学	3 人	宮前平こども文化センター	12 日
有明教育芸術短期大学	2 人	平間こども文化センター	12 日
		新丸子こども文化センター	
上智社会福祉専門学校	1 人	梶ヶ谷こども文化センター	12 日
昭 和 女 子 大 学	3 人	末長こども文化センター	12 日
		西加瀬こども文化センター	
		千代ヶ丘こども文化センター	
帝 京 科 学 大 学	1 人	菅こども文化センター	12 日
草 苑 保 育 専 門 学 校	4 人	大師こども文化センター	12 日
		住吉こども文化センター	
		上作延こども文化センター	
		虹ヶ丘こども文化センター	

イ 職業体験・まち探検（社会科見学）等の受入

① 小学校・中学校生の職業体験の受入状況

依 頼 学 校 名		人 数	実 習 場 所	実 習 期 間
川 崎	川崎小学校	8人	日進町こども文化センター	1日
	川崎中学校	10人	日進町こども文化センター	2日
	臨港中学校	10人	田島こども文化センター	4日
	京町中学校	4人	浅田こども文化センター	1日

依 頼 学 校 名		人 数	実 習 場 所	実 習 期 間
幸	南河原中学校	8人	南河原こども文化センター	2日
	御幸中学校	12人	南河原こども文化センター	2日
	戸手小学校	48人	幸こども文化センター	2日
	御幸中学校	12人	幸こども文化センター	2日
	南加瀬中学校	2人	南加瀬こども文化センター	2日
	南加瀬中学校	18人	小倉こども文化センター	7日
	塚越中学校	4人	北加瀬こども文化センター	2日
	日吉小学校	24人	北加瀬こども文化センター	2日
	日吉中学校	4人	北加瀬こども文化センター	1日
中原	中原中学校	3人	小杉こども文化センター	1日
	西中原中学校	3人	小杉こども文化センター	1日
	今井中学校	3人	小杉こども文化センター	1日
	中原中学校	12人	新丸子こども文化センター	2日
	世田谷学園中学校	3人	新丸子こども文化センター	2日
	橘中学校	12人	新丸子こども文化センター	2日
	西中原中学校	7人	新城こども文化センター	1日
	西中原中学校	5人	大戸こども文化センター	1日
	宮内中学校	3人	宮内こども文化センター	1日
高津	向丘中学校	7人	上作延こども文化センター	1日
	東橘中学校	18人	高津こども文化センター	3日
	東高津中学校	3人	二子こども文化センター	1日
	宮内中学校	3人	東高津こども文化センター	1日
	東高津中学校	3人	東高津こども文化センター	1日
	東橘小学校	7人	子母口こども文化センター	1日
	東橘中学校	14人	子母口こども文化センター	2日
	宮崎小学校	2人	梶ヶ谷こども文化センター	2日
宮前	有馬中学校	8人	有馬こども文化センター	2日
	野川中学校	5人	野川こども文化センター	1日
	白幡台小学校	46人	白幡台こども文化センター	1日
多摩	宿河原小学校	80人	枅形こども文化センター	10日
	生田中学校	6人	枅形こども文化センター	2日
	宿河原小学校	107人	長尾こども文化センター	10日
	稲田中学校	8人	長尾こども文化センター	1日
	生田中学校	6人	三田こども文化センター	2日
	南菅中学校	3人	南菅こども文化センター	1日

② 小学校・中学校正のまち探検（社会科見学）の受入状況

依 頼 学 校 名	人 数	実 習 場 所	実習期間
川崎	旭 町 小 学 校	旭 町 こども文化センター	2日
	川 崎 小 学 校	日進町こども文化センター	1日
	田 島 小 学 校	渡 田 こども文化センター	1日
	藤 崎 小 学 校	藤 崎 こども文化センター	1日
	渡 田 小 学 校	田 島 こども文化センター	1日
	浅 田 小 学 校	浅 田 こども文化センター	1日
	小 田 小 学 校	小 田 こども文化センター	2日
	新 町 小 学 校	小 田 こども文化センター	1日
	東小田小学校	小 田 こども文化センター	1日
幸	古 川 小 学 校	幸 こども文化センター	1日
	戸 手 小 学 校	幸 こども文化センター	1日
	夢見ヶ崎小学校	南加瀬こども文化センター	1日
	日 吉 小 学 校	北加瀬こども文化センター	1日
中原	今 井 小 学 校	小 杉 こども文化センター	2日
	西 丸 子 小 学 校	新丸子こども文化センター	1日
	住 吉 小 学 校	住 吉 こども文化センター	1日
	下小田中小学校	井 田 こども文化センター	2日
	井 田 小 学 校	井 田 こども文化センター	1日
	平 間 小 学 校	平 間 こども文化センター	1日
	下 河 原 小 学 校	平 間 こども文化センター	1日
	住 吉 中 学 校	西加瀬こども文化センター	1日
	新 城 小 学 校	新 城 こども文化センター	2日
	大 谷 戸 小 学 校	大 戸 こども文化センター	5日
	大 戸 小 学 校	大 戸 こども文化センター	1日
	宮 内 小 学 校	宮 内 こども文化センター	1日
高津	上 作 延 小 学 校	上 作 延 こども文化センター	3日
	高 津 小 学 校	高 津 こども文化センター	2日
	坂 戸 小 学 校	二 子 こども文化センター	2日
	東 高 津 小 学 校	東 高 津 こども文化センター	5日
	子 母 口 小 学 校	子 母 口 こども文化センター	1日
	西 梶ヶ谷小学校	梶ヶ谷こども文化センター	1日
宮前	宮 崎 台 小 学 校	宮 崎 こども文化センター	2日
	西 有 馬 小 学 校	有 馬 こども文化センター	1日
	有 馬 小 学 校	有 馬 こども文化センター	2日
	宮 崎 小 学 校	有 馬 こども文化センター	2日
	南 野 川 小 学 校	野 川 こども文化センター	2日
	野 川 小 学 校	野 川 こども文化センター	2日
	西 野 川 小 学 校	野 川 こども文化センター	1日
	宮 崎 台 小 学 校	宮 前 平 こども文化センター	1日
	宮 前 平 小 学 校	宮 前 平 こども文化センター	1日
	白 幡 台 小 学 校	白 幡 台 こども文化センター	2日
多摩	東 生 田 小 学 校	枡 形 こども文化センター	1日
	宿 河 原 小 学 校	長 尾 こども文化センター	1日
	生 田 小 学 校	錦ヶ丘こども文化センター	1日
	南 生 田 小 学 校	錦ヶ丘こども文化センター	1日
	三 田 小 学 校	三 田 こども文化センター	1日
	中 野 島 小 学 校	中 野 島 こども文化センター	2日
麻生	千代ヶ丘小学校	千代ヶ丘こども文化センター	1日
	虹ヶ丘小学校	虹ヶ丘こども文化センター	1日
	柿 生 小 学 校	柿 生 こども文化センター	1日
	王禅寺中央小学校	白 山 こども文化センター	1日
	麻 生 小 学 校	麻 生 こども文化センター	1日

③ 私立中学生・高校生ボランティアの受入状況

依 頼 学 校 名	人 数	実 習 場 所	実習期間
高 津 養 護 学 校	15人	有馬こども文化センター	3日
聖 心 女 子 学 院	1人	末長こども文化センター	3日
大 妻 中 学 校	1人	梶ヶ谷こども文化センター	3日
世 田 谷 学 園 中 学 校	2人	三田こども文化センター	3日
大 東 学 園 高 校	1人	南菅こども文化センター	1日

④ チャレンジボランティア（夏期）の受入状況

主 催 者	人 数	受 入 場 所	受入期間
川崎市社会福祉協議会 区社会福祉協議会 川崎市公園緑地協会 川崎授産所学園 当活動センター	7人	幸こども文化センター	4日
	4人	東生田小学校わくわくプラザ	2日
	1人	ふあみいゆ殿町	2日

ウ 事故報告

(ア) こども文化センターでの事故について

過去5年間のこども文化センターにおける事故の件数は、次のとおりです。

月	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度
4 月	2 (1) 人	1 (1) 人	1 (1) 人	3 (1) 人	2 (0) 人
5 月	0 (0) 人	1 (0) 人	1 (0) 人	1 (0) 人	2 (1) 人
6 月	1 (1) 人	4 (1) 人	0 (0) 人	2 (1) 人	1 (0) 人
7 月	3 (3) 人	1 (1) 人	2 (0) 人	1 (0) 人	1 (0) 人
8 月	0 (0) 人	2 (1) 人	3 (1) 人	2 (1) 人	6 (3) 人
9 月	1 (0) 人	6 (3) 人	6 (2) 人	0 (0) 人	2 (1) 人
10 月	5 (3) 人	3 (2) 人	2 (0) 人	1 (0) 人	3 (2) 人
11 月	1 (0) 人	0 (0) 人	5 (2) 人	2 (0) 人	1 (0) 人
12 月	2 (0) 人	2 (1) 人	2 (0) 人	3 (0) 人	0 (0) 人
1 月	0 (0) 人	3 (1) 人	0 (0) 人	0 (0) 人	0 (0) 人
2 月	3 (0) 人	2 (1) 人	2 (1) 人	3 (1) 人	4 (1) 人
3 月	6 (4) 人	4 (2) 人	2 (1) 人	0 (0) 人	2 (0) 人
計	24 (12) 人	29 (14) 人	26 (8) 人	18 (4) 人	24 (8) 人

* () は4日以上通院の事故内数（平成28年3月31日現在）

(イ) わくわくプラザでの事故について

わくわくプラザにおける事故件数は、減少傾向にあります。館長会議での事例検討会等による類似事故の防止対策、適切な見守り配置の再確認、子どもたちへの声掛けの強化、準備運動の徹底などの様々な取組みの効果によるものと考えています。また、トランシーバーの活用によって見守り中の連絡が潤滑になったことや、登室児童にビブスを着用させ一般校庭利用児童との見分けが付きやすく見守りがしやすくなったことも減少理由の一つと考えられます。過去5年間のわくわくプラザにおける事故の件数は、次のとおりです。

月	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度
4 月	43 (13) 人	16 (4) 人	21 (3) 人	17 (8) 人	9 (0) 人
5 月	14 (4) 人	29 (6) 人	15 (4) 人	15 (3) 人	13 (2) 人
6 月	21 (7) 人	28 (9) 人	14 (9) 人	13 (1) 人	11 (7) 人
7 月	17 (7) 人	20 (6) 人	19 (7) 人	16 (3) 人	9 (1) 人
8 月	17 (5) 人	15 (3) 人	13 (4) 人	7 (0) 人	13 (5) 人
9 月	21 (6) 人	11 (2) 人	10 (1) 人	10 (5) 人	10 (3) 人
10 月	20 (9) 人	16 (6) 人	11 (6) 人	14 (5) 人	10 (2) 人
11 月	19 (7) 人	19 (6) 人	12 (0) 人	8 (1) 人	10 (4) 人
12 月	16 (4) 人	14 (1) 人	8 (1) 人	13 (4) 人	10 (2) 人
1 月	7 (1) 人	12 (2) 人	8 (0) 人	7 (1) 人	12 (4) 人
2 月	2 (0) 人	7 (3) 人	3 (1) 人	8 (2) 人	11 (5) 人
3 月	20 (4) 人	7 (2) 人	14 (8) 人	16 (3) 人	10 (3) 人
計	217 (67) 人	194 (50) 人	148 (44) 人	144 (36) 人	128 (38) 人

* () は 4 日以上通院の事故内数（平成 28 年 3 月 31 日現在）

(ウ) その他の場所での事故について

平成 27 年度のわくわくプラザの登下校時の事故は 30 件でした。

3 法人の運営

2010（平成22）年に公益財団法人としての認定を受けたことから、この間、効果的な公益事業の実施と、法人としての役割・機能が発揮できる組織づくりを本部と現場が一体となって取り組んできました。また、当財団の実施している事業や財務に関して広く市民へ説明する責務を自覚して法人の運営を行いました。

ア 業務・組織の改革

法人全体の業務改善に取り組むとともに、事業計画の進捗管理を着実にを行い、コスト削減や効果的な事業の実施等を通じて、経営基盤の強化を図り組織の総合力の向上に努めました。組織としての一体感の醸成や職員のスキルアップを図るための各種研修の実施等、職員の意識改革の促進と人材育成に取り組みました。

また、平成28年度からの第3期のこども文化センターの指定管理業務を受託するために、エリア単位のマネージャーと館長職との連携を図るとともに、適正な人事配置と業務執行体制の強化を進める等、組織体制の整備を図りました。

イ 財務改善

経理・会計処理では、公益法人会計基準に準拠した会計を確実にを行うために、平成25年9月1日からP C A 公益法人会計ソフトを導入して実施しています。平成26年度からは諸謝金の会計処理の業務委託を取り止め、経理担当で直接実施することにより会計経費の削減を図りました。また、当期は青少年健全育成事業に係る特定費用準備資金を新たに保有して今後の公益目的事業の拡充を図りました。引き続き、適正な会計処理の実施に向けて経理事務の改善を推進するとともに、安定した公益財団法人の経営を維持するために適切な財務管理を実施します。

ウ その他

平成 26 年度の事業報告書等の提出については、関係書類等を作成し監事監査を経て理事会及び評議員会（定時評議員会）での承認を受け、平成 27 年 6 月に行政庁(神奈川県)へ報告しました。関係書類等については事務所に備え置くとともに、貸借対照表を公衆の見やすい場所に掲示しました。

なお、平成 28 年度予算書については、平成 28 年 3 月 3 日の第 3 回理事会において承認を受けましたが、その後、平成 28 年度の指定管理料の変更が川崎市から示されたため、書面による議決を経たうえで、平成 28 年度事業計画書等の提出書類とともに 3 月 31 日に行政庁へ報告しました。